

豊かな時間を共有する

(PTA会報「清明」より)

「時は誰にでも平等に流れている」と言います。しかし自分自身はというと、このごろ月日がますます速く過ぎてゆくように感じられてなりません。しかも、思い出の方はそれと反比例するように心に宿りにくくなっています。若い頃と年を取っからの時間の流れは全く違う、平等ではないということでしょうか。

実はそのとおりなんだ、ということを実日ある本を読んで知りました。

フランスの心理学者ジュネーは、「人の生涯の、ある時間における一定時間の心理的な長さは、その人のその時までの生涯の長さの逆数に比例する」と論じています。要するに、年を取れば取るほど、時間は短く感じられるということ。彼の説によれば、たとえば16歳が感じる1年は、60歳が感じる1年の約4倍の長さになるらしいのです。

人生80年と言われ生涯の持ち時間が70万時間を超える中で、高校生世代は人生で最も多感な時期にいると言われます。ある作家は少年たちの「心理的時間」を、「内部から満ちあふれてくる時間」と呼びました。彼らは時間が最も豊かな毎日を過ごしているのです。

そして彼らは、おそらくこの数年間のちょっとした出来事さえも、いずれ鮮明に思い出すことになるのでしょう。今の私たちがそうであるように。

時間に鈍感になった私たち大人が、時間に最も敏感な高校生と時間を共有する。これはなかなか難しいことのように思えます。でも、できることなら彼らの心に刻まれたシーンを、一緒に心に刻みたい。そして10年後20年後に、その共有された思い出が何気なく親子の会話に上って来たらと思うと、ちょっとワクワクしませんか。

とはいえ、生意気盛りの高校生が、自分の出来事をあれこれ親に話すとも思えません。

そんなお子様の「豊かな時間」を堂々と鑑賞し、時間を共有できる絶好の機会。その一つがたとえば学校行事であり、部活動です。文化祭や体育祭、各部の大会やコンクール。今年度の予定はほぼ終了しましたが、言うまでもなく1・2年生には来年の行事・大会があります。そして、3年生の保護者の皆様には、まもなく受験&卒業という唯一無二の“共有チャンス”が控えています。

ちょっと気合を入れて、高校生ならではの「豊かな時間」を共有する。それは、私たち大人の時間を豊かにする秘訣なのかもしれません。